

令和3年度 県立学校プロジェクト学習推進事業  
実施報告書【課題実践校用】

学校番号	20
学校名	富山県立富山南高等学校

学校の現状と課題	本校では、校訓「自ら 学び 思い 律する」のもと、「志高く創造性豊かな実践力のある人間を育成する」を教育目標としている。多くの生徒は温和で良識を有し、国公立大学や難関私立大学への進学を希望し、さらに学習と部活動を両立させようと努力している。そこで、主体的な学習生活を確立させるための指導法を工夫することによって、積極性を身につけ、忍耐力や集中力を持続できる生徒の育成に努めること、自分の生き方、将来の職業、進学目的について十分考える機会を設けることにより、学ぶ意欲を高めることを課題として取り組む。	
テーマ(特色)	主体的に学習する強い意志とその実行力のある生徒の育成	
設定した「テーマ」の達成状況	生徒の学習到達度や興味・関心等に配慮し、「主体的・対話的で深まる授業」を行うとともに、主体的な学習習慣の確立を目指しいろいろな取り組みを行った結果、十分とはいえないが、生徒の学習意識を高めることができた。アメリカ等の高校生との交流および国際関係行事を通して海外の実情等を知り、これから自分たちがなすべきことを深めさせることができた。また、進路探訪という名のもと、1学年は社会人講話および19職種の分科会、2学年は県内の大学見学・企業訪問を行い、進路意識の早期の確立に努めた。生徒のアンケート結果からは働く意義の理解や進路意識の向上をみることができた。さらに、個々の生徒の高い進路志望を達成するため、本校教職員が各種教育研究所が主催する授業改善セミナーや校内での研修会に参加することを通して、教員の指導力向上に努めた結果、教員の意識改革ならびに実践力の向上が認められた。高校3年間を見通した計画的、継続的な指導体制を構築し、国公立大学や難関私立大学への進路達成を着実に支援することについては、学校全体で取り組んでおり、より一層の充実を目指したい。	
実施内容 (具体的に記入する)	<p>1 授業改善等による学習意欲・学力の向上</p> <p>(1)アクティブ・ラーニング、ICT等の教員の指導力向上のための研修プログラムへの参加 駿台や代ゼミ等が行う教員研修プログラムに参加し、授業改善に生かす。</p> <p>(2)授業力向上のための校内研修等の実施 全校教員による互見授業および生徒アンケートを実施し、授業改善を目指す。</p> <p>2 生徒の進路達成のために、高校3年間を見据えた実効性ある指導体制の構築</p> <p>(1)本校のこれまでの取り組みの検証と先進校の事例研究を踏まえた改善計画の策定 国公立大学合格者数が増加している高校の取り組み状況を調査し、本校の進路指導の改善に生かす。</p> <p>(2)大学との連携による意識の啓発 進路探訪において大学見学や大学の先生による講義の聴講および企業訪問を行い、時代の最先端の事柄に触れることによって、自己の進路を考える一助とする。</p> <p>(3)先輩(大学生)に学ぶ会の開催 本校卒業生との交流を等して、進路や学習に関する見識を深める。オンラインで開催。</p> <p>3 グローバル人材の育成</p> <p>(1)外国人講師による講演や実習を通して、民族間の考え方・文化の違いを知る。また、そのことを自国理解の深まりにつなげる。</p> <p>(2)アメリカのサンディギート高校等とのオンライン交流を行い、自己発信力の向上につなげる。</p> <p>(3)総合的な探究の時間の活用 ・県内の大学から講師を招き、課題設定の方法、仮説の立て方、研究の進め方、情報収集の方法、研究成果発表方法を学ぶ。 ・対話や議論を通じて自分の考えに根拠を持たせて伝えるとともに、他者の考えを理解し自分の考えを広げたり深めたりする体験をする。</p>	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	<p>1 授業改善等による学習意欲・学力の向上について 教科別に新学習指導要領に対応すべく研修会を開催し、観点別評価に関する理解と公平・公正な評価に向けた協議を深めることができた。また、互見授業および生徒アンケートを実施し、授業改善に繋げた。特にオンライン授業の実施のため、授業見学を積極的に行い、全教員がICT教育に取り組み、対面授業にもICTを取り入れることが多くなった。また、予備校主催の教員研修プログラムは、新学習指導要領に対応した授業やオンライン授業への取り組みへの一助となり、授業に活かされている。</p> <p>2 生徒の進路達成のための高校3年間を見据えた実効性ある指導体制の構築 1・2学年の各「進路探訪」を中心に1学年は社会人講話および19職種の分科会、2学年は富山大学と企業や官公庁等での見学・実習により、進路意識の高揚と職業への関心が高まった。また、オンラインにより先輩大学生より直接進路に関する助言をもらうこともでき、大学進学が当面の目標としてより実感することができた。</p> <p>3 グローバル人材の育成 広い視野から課題設定し、仮説の検証、研究成果と今後の課題をまとめる一連の研究の進め方を身につけられた。SDGsの17のゴールに焦点を当て、対話や議論を通じて自分の考えに根拠を持たせて伝えるとともに、他者の意見も尊重して聞き、その考えを理解する取り組みができた。その際、県内大学教授やJICA職員等の講演や実習は生徒が見識を広め、多様な考えを尊重する機会としてたいへん有意義であった。また、サンディギート高校等とのオンライン交流を通して、自己発信力の向上にもつながった。</p>	
対象者(学年・人数など)	全校生徒・全教職員	
実施実績	4月	各教科で授業改善や共通テストに向けた指導体制の構築に関する計画を立案 県内大学教授による総合的な探究の時間に関する研修の実施(2年生) 本年度のサンディギート高校との交流開始(3月まで随時実施、オンラインでの交流)
	5月	県内大学教授による総合的な探究の時間に関する研修の実施(2年生)
	6月	学問探究(1年)
	7月	県内大学教授による総合的な探究の時間に関する研修の実施(1年生)
	8月	映像コンテンツによる教員研修プログラムに参加(国語 数学 公民) サンディギート高校との集中オンライン交流
	9月	スピーチセミナー(国際コース・希望者) 先輩(大学生)に学ぶ会(2年生)
	10月	進路探訪-県内の大学見学・企業訪問等-(2年生) 外国人講師による生徒への講演および実習(2学年国際コース)
	11月	互見授業実施(生徒が主体的・対話的に取り組む授業の実践および効果的にICTを活用した授業の実践) 市役所出前講座
	12月	進路探訪-社会人講話 19職種による分科会-(1学年)
	1月	互見授業実施(生徒が主体的・対話的に取り組む授業の実践および効果的にICTを活用した授業の実践)
	2月	
	3月	